

間質性肺炎と栄養課題：消耗性疾患における基礎理解

1. 間質性肺炎とは？

間質性肺炎は、肺の間質(肺胞と毛細血管の間の組織)に炎症が生じ、線維化(硬化)が進行する疾患です。線維化が進むと肺が硬くなり、酸素の取り込みが低下するため、呼吸困難や息切れが慢性的に続きます。特に特発性間質性肺炎(IIP)は原因が特定されておらず、進行性であることが多いため、早期からの適切な管理が求められます。

【代表的な症状】

- ・息切れ・呼吸困難(特に動いたときに悪化)
- ・慢性的な乾いた咳(痰を伴わないことが多い)
- ・体重減少・倦怠感などが挙げられます。

2. 特発性間質性肺炎(IIP)

間質性肺炎の原因は様々ですが、原因不明のものを特発性間質性肺炎(IIPs)と総称します。

特発性間質性肺炎は、難病に指定されています(指定難病85)

3. 間質性肺炎と栄養課題

間質性肺炎の患者は、疾患の進行とともにエネルギー消費量が増加する一方で、十分な栄養を摂取することが難しくなります。その主な要因として、以下のような点が挙げられます。

◆呼吸仕事量の増加

肺の線維化が進むと、呼吸するために通常より多くのエネルギーを必要とします。特に努力性呼吸(息を吸うために胸の筋肉を使う状態)が続くと、安静時でも消費カロリーが増加します。

◆食欲低下・摂食困難

呼吸困難があると、食事をする事自体が負担になります。特に食事時の息切れによって、一度に多くの食事を摂ることが難しくなることが多いです。

4. 消耗性疾患とは

間質性肺炎以外にも、病気の進行によりエネルギーを多く消費する。いわゆる消耗性疾患があります。

消耗性疾患(wasting disease)とは、慢性的な疾患の進行により、体重減少、筋肉量の減少、エネルギー消費の増大を伴う病態を指します。特に、高齢者や慢性疾患を持つ人においては、栄養状態の悪化が全身の機能低下を引き起こすリスクが高まるため、早期の対応が重要です。

代表的な消耗性疾患には、以下のようなものがあります。

- ・ 呼吸器疾患(間質性肺炎、COPD など)
- ・ がん・悪性腫瘍(がん悪液質)
- ・ 神経疾患(ALS、パーキンソン病 など)
- ・ 心疾患(心不全 など)
- ・ 慢性感染症(結核、HIV/AIDS など)

これらの疾患では、炎症や代謝の異常が持続することで、エネルギー消費が亢進し、体重や筋肉量が減少しやすくなります。特に、呼吸器疾患(間質性肺炎、COPD など)では、呼吸の負担が増えることで安静時でも消費エネルギーが高くなることが知られています。

(参考文献)

参考 URL: 難病情報センター

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/156>

参考 URL: 日本呼吸器学会「間質性肺疾患」より

<https://www.jrs.or.jp/citizen/disease/d/d-01.html>

参考 URL: 「東邦大学医療センター大森病院間質性肺炎センター

<https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/ip/patient/nutrition.html>

監修: 看護師・主任介護支援専門員 伊藤